

東部療育センターの外来グループ療育について

東部療育センターでは、発達の遅れやつまづきのある1歳児～5歳児を対象にグループ療育を行っています。年齢や一人ひとりの理解に合わせたスケジュールの提示の仕方や環境設定など、様々な支援の工夫をしています。今回は、年長つばめグループで行っている活動や取り組み、支援グッズについて紹介します。

5月にはスライムを自分で作って遊びました。1人ではできないところは「手伝ってください」と言葉で伝えたり、援助要請が苦手なお子さんは絵カードを渡しながらかえたり、自分で援助要請する経験ができました。また、ひと工程ずつ視覚的に示すことで「自分でできた!」という成功体験ができ、みんなとても嬉しそうでした。



▲「てつだって」を手助けする絵カード



▲年長グループのファイル

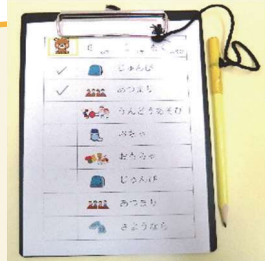
年長グループでは活動を通して、集団生活や人との関わりの中で大切なソーシャルスキルも学んでいきます。6月には運動遊びを通して、順番を守ることのメリットやマナーについて学びました。

紙芝居や実際の活動で体験しながら学んだソーシャルスキルは、ファイルに挟んで、グループが終わった後や小学校入学後も何度でも見返せるようにしています。

支援グッズ紹介コーナー



登園時・帰宅時の荷物準備のときに使っています。



一人ひとり個別のスケジュールを使っています。視覚的に分かりやすく示すことで、見通しを持って参加することができます。



毎回グループ療育の最後に「きもちしらべ」を行い、その日の活動を振り返りながら、自分の気持ちを知る、伝える経験をしています。